

第17回

三重県文化賞受賞者名簿

平成30年5月27日

三 重 県

第17回三重県文化賞 総評

三重県文化賞は、三重県の文化振興に貢献し、その活動や功績が優れた個人・団体（以下「個人等」という）を讃えることにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標になるようにという趣旨で設けられた顕彰制度である。

表彰の体系は、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動と功績が優れ、本県の文化向上に貢献した個人等を対象にしている文化大賞、文化功労賞及び文化奨励賞と、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動で将来一層の向上が期待される個人等（県内在住又は三重県出身者に限る。）を対象にしている文化新人賞からなる。

平成13年度の第1回表彰から平成28年度の第16回表彰までの受賞者数は226名・団体（以下「名」という。）である。

受賞候補者の推薦は、公募により、自薦、他薦を問わない。

第17回目になる今回は、平成29年7月26日から9月25日まで募集を行ったところ、44名の方からの推薦があり、受賞候補者は40名となった。

【募集結果】

受賞区分	推薦数	受賞候補者数
文化大賞	13	9
文化功労賞	10	10
文化奨励賞	15	15
文化新人賞	6	6
計	44	40

※上記のうち、「推薦数」と「受賞候補者数」の件数の相違については、受賞候補者に対し複数名の推薦があったことによるもの。

各賞の受賞者については、三重県文化賞表彰要綱及び三重県文化賞実施要領の規定に基づき、学識経験者、芸術文化関係者等10名で構成する第17回三重県文化賞選考委員会（以下「選考委員会」という。）の選考を経て、知事が決定する。

選考委員会では、推薦書、履歴・業績調書、履歴・業績を示す資料を基に、また、必要に応じて内容の確認や追加資料の提出を求め、厳正かつ公正に行った。

選考委員会における各賞の選考過程は次のとおりである。

文化大賞は「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が極めて優れ、三重県の文化の向上に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点から第一次選考を行って3名に絞り込み、第二次選考を行った。第二次選考に残った3名は、いずれも活動、功績とも素晴らしく優劣をつけがたいもので、様々な観点から議論を行い、二度の決選投票を経て、最終的に音楽分野（合唱）の合唱団「うたおに」を選出した。

文化功労賞は「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が優れ、三重県の文化の活性化に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で、第一次選考を行って6名に絞り込み、第二次選考を行った。第二次選考に残った6名の活動と功績は優れた水準を維持しており、優劣つけがたい状況であったが、決選投票の結果、最終的に文学分野（俳句）の井上博暁（雅号：井上海風）さん、伝統芸能分野（能）の菊川淑子さん、音楽分野（吹奏楽）の桐生智晃さんの3名の選出となった。

文化奨励賞は「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動により功績を収め、三重県の文化興しに貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で、第一次選考を行って10名に絞り込み、第二次選考を行った。第二次選考に残った10名の活動水準は高く、評価が伯仲する状況であったが、最終的に写真分野（写真）の牛場和美さん、文学分野（小説）の紺谷猛さん、美術分野（陶人形）の近藤たみさん、文学分野（小説）の藤原伸久さん、音楽分野（箏曲）の森玲子さんの5名を選出した。

文化新人賞は「県内在住者又は三重県出身者で、芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動で、将来一層の向上が期待される個人等」に授与するものである。

この視点で、第一次選考では審査の結果、受賞候補者6名全員を第二次選考の対象とし、第二次選考を行うこととした。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考を行い、文学分野（俳句）の赤野四羽（本名：大隈貞嗣）さん、文学分野（俳句）の岡島千秋さん、文学分野（詩・児童文学）の久保恵子さん、音楽分野（声楽）の小林美咲さん、美術分野（陶芸）の白木千華さんの5名を選出した。

選考結果をみると、選考委員会での真摯な議論により、各賞とも素晴らしい方々を選出することができた。受賞された皆様におかれては、今後ますますのご活躍と、三重県の文化レベルの一層の向上に寄与していただくことを期待したい。

今回の受賞候補者を分野別で見ると文学分野 6 名、音楽分野 4 名、美術分野 2 名、写真分野 1 名、伝統芸能分野 1 名であった。

文学分野、音楽分野、美術分野での推薦が多く、これらの分野で活躍される方々の層の厚さが窺われる一方、メディア芸術や生活文化の分野の推薦がなかったことから、今後、幅広い分野からの推薦をいただくよう期待する。

なお、推薦件数は昨年度と同様 44 件であったが、地域別にみると、昨年度は応募がなかった東紀州地域から推薦があった。

第 18 回以降は、より多くの、そして、より多彩な文化活動に携わっている方々の成果が多く推薦されることを願う。

最後に、三重県の文化の向上に寄与するため、三重県の文化活動のさらなる活性化と向上のための礎となることを願う。そのためにも三重県文化賞の意義をより明快に県民に認知していただけるよう、広報をさらに充実することで、幅広い分野や多くの地域の方々からの積極的な応募につながることを切望する。

第 17 回三重県文化賞選考委員会

(受賞候補者名は各賞五十音順)

第17回三重県文化賞受賞者

(受賞者名)	(住所)	(活動分野等)
〔文化大賞〕 合唱団 「うたおに」	津市	音楽分野 (合唱)
〔文化功労賞〕 井上 博暁 (85歳) (雅号: 井上 海風)	伊勢市	文学分野 (俳句)
菊川 淑子 (85歳)	伊勢市	伝統芸能分野 (能)
桐生 智晃 (48歳)	津市	音楽分野 (吹奏楽)
〔文化奨励賞〕 牛場 和美 (71歳)	津市	写真分野 (写真)
紺谷 猛 (84歳)	桑名市	文学分野 (小説)
近藤 たみ (75歳)	四日市市	美術分野 (陶人形)
藤原 伸久 (58歳)	伊勢市	文学分野 (小説)
森 玲子 (55歳)	四日市市	音楽分野 (箏曲)
〔文化新人賞〕 赤野 四羽 (40歳) (本名: 大隈 貞嗣)	鈴鹿市	文学分野 (俳句)
岡島 千秋 (66歳)	伊賀市	文学分野 (俳句)
久保 恵子 (62歳)	伊勢市	文学分野 (詩・児童文学)
小林 美咲 (25歳)	津市	音楽分野 (声楽)
白木 千華 (43歳)	四日市市	美術分野 (陶芸)

(各賞五十音順、年齢は平成30年5月27日現在)

賞別 文化大賞 活動分野等 音楽分野（合唱）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>合唱団「うたおに」 （団長：小柴信之）</p>	<p>津市</p>	<p>合唱団「うたおに」は、「今までにない合唱団を！」というキャッチフレーズを掲げ昭和49年に創設された。以降、平成10年に「三重県平成文化賞」特別賞、平成12年に「地域文化功労者表彰」を受賞するとともに、「全日本合唱コンクール」では第38回大会から51回大会まで14年間連続で出場し、その間、金賞3回、銀賞7回、銅賞3回、優良賞1回受賞の実績を有し、第50回大会では、総合1位にあたる「文部大臣奨励賞」を受賞するなど、数多くの受賞歴を有する。</p> <p>また、各学校において児童・生徒向けに数多くの公演を実施し、愛唱合唱曲やポップスから校歌演奏などを通じて子どもたちに合唱の楽しさを伝えるとともに、福祉・医療施設や刑務所への訪問演奏、地元商店街における、商店街の活性化を目的とした月1回のマンスリーコンサートを開催し、地域の発展に寄与している。</p> <p>さらに、東日本大震災で被災した地域を訪問し、地元の方々と合唱を通じた交流を行うなど、県の東日本復興支援施策にも貢献している。</p> <p>一方で、その活動は県内外にとどまらず、カナダや中国、韓国など海外でも演奏会を開催するとともに、県内の他の合唱団や邦楽、ブラスバンドなど異なる分野とのコラボレーションを積極的に行うなど、幅広い活動を展開し、合唱の持つ可能性を広げている。</p> <p>当団体のこうした活動と功績は極めて優れたものであり、本県の文化の向上に大きく貢献している。</p>

賞別 文化功労賞 活動分野等 文学分野（俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>いのうえ ひろあき 井上 博暁</p> <p>(雅号：いのうえ かいふう 井上 海風)</p> <p>(85 歳)</p>	<p>伊勢市</p>	<p>氏は、昭和 27 年に発足し、地元の俳句愛好家により結成され、現在まで 60 余年の歴史をもつ「浜島ありそ俳句会」に 19 歳で会員として入会以来、永きにわたり俳句の普及振興に尽力している。</p> <p>平成 22 年に「二学期へ大きな海の絵をかかへ」の一句で「三重県全国俳句大会」最優秀賞、平成 25 年には「真っ新の魔除けの布や海女を縫ぐ」の一句で「NHK 全国俳句大会」大賞を受賞している。</p> <p>また、「浜島ありそ俳句会」では、会員として入会以来事務局を担当し、会が発足してから一度も休むことなく継続している月例俳句会や、吟行句会、新年句会等の開催に尽力し、指導的な立場で会員を牽引してきた。現在は、当会の会長として俳句を楽しみながら、若い会員の参加も呼び掛けるなど、伝統継承に努め、地域の文化教育の発展に貢献している。</p> <p>さらに、地元公民館において、俳句入門教室、短歌教室の講師として、人材の育成と俳句を通じた地域の文化活動の底辺を広げている。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別 文化功労賞 活動分野等 伝統芸能分野（能）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>きくがわ よしこ 菊川 淑子 (85 歳)</p>	<p>伊勢市</p>	<p>氏は、昭和 40 年に地元一色町での能舞台に仕舞として参加して以来、現在に至るまで永きにわたり能の普及振興に尽力している。</p> <p>「一色神社例祭奉納」や 20 周年を迎えた「伊勢の伝統の能楽まつり」など、多数の能舞台でシテ方を務めている。</p> <p>かたくなに女性の登場を禁止していた地元の能舞台に女性参加の門戸を切り開いた先駆者であり、特に女性のシテ方として活躍する氏の影響もあり、地元において能への女性参加が増加し、現在では 9 名の女性が一色町能楽保存会に参加している。</p> <p>さらに、「伊勢能楽連盟」理事及び「一色町能楽保存会」副会長として、会員の自主的な練習にも参加して後進の指導にあたりるとともに、一色能こども教室で献身的に子どもたちの世話をするなど人材の育成にも努めている。</p> <p>現在も現役として活躍している姿は、会員の模範であり尊敬の的となっており、地元一色能の伝統継承と地域文化の振興に寄与されている。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別 文化功労賞 活動分野等 音楽分野（吹奏楽）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>きりゅう ともあき 桐生 智晃 (48 歳)</p>	<p>津市</p>	<p>氏は、本県の中学校、高等学校に教員として勤務しながら吹奏楽部顧問として活動し、現在に至るまで永きにわたり吹奏楽の普及振興に尽力している。</p> <p>平成21年に「三銀ふるさと三重文化賞」、平成25年には「三重県文化奨励賞」、平成19年、23年、24年と「全日本吹奏楽連盟指揮者賞」を3度受賞、また、平成26年には「中日教育賞」など数多くの受賞歴を有する。</p> <p>また、「三重県高等学校吹奏楽連盟」理事、「三重県吹奏楽連盟」理事として活躍するとともに、小中学生向けの演奏指導、卒業生による吹奏楽団結成や、音楽の魅力を地域の人に伝えるため、幼稚園や老人ホーム、地元の行事などでも積極的に訪問演奏を行うなど、本県の音楽分野の人材育成や振興に寄与している。</p> <p>さらに、平成19年より地元鈴鹿市の偉人「大黒屋光太夫」を題材にした創作ミュージカルを毎年開催するなど、地域の発展にも尽力している。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別 文化奨励賞 活動分野等 写真分野（写真）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>うしば かずみ 牛場 和美</p> <p>(71 歳)</p>	<p>津市</p>	<p>氏は、昭和 53 年に「全日本写真連盟だ いこん支部」を創設以来、写真活動を開 始し、「二科展」入選 9 回、平成 17 年に 「三重県展」優秀賞、平成 22 年、26 年と 全日本写真連盟主催の「国際写真サロン」 に入選、平成 28 年には、「日本の自然写 真コンテスト」で吉野信賞など数多くの 受賞歴を有し、高く評価されている。</p> <p>また、「全日本写真連盟」中部本部委員 として県内支部の月例会の講師を務め るとともに、県本部主催の撮影会指導と その審査員も務め、会員の写真技術の向上 と後進の指導育成に尽力している。</p> <p>さらに、地元公民館での写真講座にお いて講師を務めるとともに、平成 26 年か らは津市美術展審査員、平成 29 年からは 名張市美術展審査員を歴任し、三重県内 の写真文化の向上に寄与している。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、 本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別 文化奨励賞 活動分野等 文学分野（小説）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>こんたに たけし 紺谷 猛 (84 歳)</p>	<p>桑名市</p>	<p>氏は、平成 3 年に文芸同人誌「海」の同人となる。以来、ほぼ毎号欠かすことなく小説を執筆・発表を続け、平成 10 年に「三重県文学新人賞」小説部門を受賞している。</p> <p>また、氏の企業人としての長年の企業勤務や数度の転勤、単身赴任、経営者としての経験などをもとに市井の庶民生活を描く氏の作品は、新聞・雑誌でも取り上げられ、高く評価されている。</p> <p>文芸同人誌「海」では最年長の同人として、文学的知識と社会的な経験を活かして、他の同人に対し指導、助言を与えた。</p> <p>企業勤務の後、大学の通信教育課程で井上靖の作品を中心に文学を学び、その経験を活かし大学の通信教育部指導員を 6 年間務め、県下のあまたの後進の相談助言も行うなど文学分野の普及振興に尽力している。</p> <p>著書に「海岸給油所」「虹の橋」などがある。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別 文化奨励賞 活動分野等 美術分野（陶人形）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p> <small>こんどう</small> 近藤 たみ (75 歳) </p>	<p>四日市市</p>	<p>氏は、日本でも数少ない人形制作者の一人として活躍し、平成 6 年に「四日市市美術展覧会」文化振興会賞、平成 16 年には「伝統工芸人形展」朝日新聞社賞、平成 19 年には「東海伝統工芸展」NHK 名古屋放送局長賞など数多くの受賞歴を有し、重要無形文化財保持者（人間国宝）を中心とした伝統工芸作家等で組織する「日本工芸会」の正会員に認定されるなど、高く評価をされている。</p> <p>また、平成 14 年にモスクワ東洋美術館で開催された「日本の伝統工芸人形展」への出品などを通じ、海外で日本の伝統工芸品としての人形を展示し、啓発活動もされている。</p> <p>さらに、「日本工芸会東海支部」実行委員や「三重のやきもの展」審査員を務めるとともに、平成 8 年からは自宅工房において、陶人形教室や夏休み子ども陶芸教室を開催し、人材育成に尽力されている。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別 文化奨励賞 活動分野等 文学分野（小説）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>ふじわら のぶひさ 藤原 伸久</p> <p>(58 歳)</p>	<p>伊勢市</p>	<p>氏は、昭和 60 年に「教育文芸みえ」小説部門に作品が掲載されて以来、小説を書き続け、平成 4 年には「三重県文学新人賞」小説部門を受賞している。</p> <p>川端康成、小林秀雄などを同人に数多くの作家・評論家を輩出してきた月刊文芸誌「文學界」の同人誌評に 15 回以上取り上げられ、その間にベスト 5 に 6 回名を連ねている。平成 22 年に文芸同人誌『文宴』の同人となり、同誌 123 号に発表掲載した「標識」は、中部ペンクラブ賞の最終候補にノミネートされるなど氏の作品は高く評価されている。</p> <p>また、平成 22 年からは「教育文芸みえ」編集委員及び小説の選者として、後進の育成に尽力するとともに、雑誌自体のレベルアップを牽引し、全国的水準に高めることに大きく貢献した。</p> <p>さらに、芝居の脚本も執筆し、地域演劇で上演され、地域文化の発展を促した。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別 文化奨励賞 活動分野等 音楽分野（箏曲）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>もり れいこ 森 玲子 (55 歳)</p>	<p>四日市市</p>	<p>氏は、昭和 60 年に「三重県三曲協会」に入会し、現在に至るまで、毎年定期演奏会に参加するなど、活動を続けている。</p> <p>平成 9 年に東海三曲演奏家の会主催「箏レディースコンサート」優勝、平成 10 年には「長谷検校記念全国邦楽コンクール」奨励賞、平成 23 年には東海三曲演奏家の会主催の「新春三曲演奏会」で「愛知県芸術文化協会」芸術賞を受賞するなど数多くの受賞歴を有する。</p> <p>また、自宅や楽器店などで、箏、三弦等の指導を行う一方で、平成 17 年から四日市南高等学校箏曲部の非常勤講師として指導に力を注ぎ、県大会 6 連覇を成し遂げ、全国大会に出場、入賞を果たすなど、後進の人材育成に寄与している。</p> <p>さらに、地元幼稚園、保育園、県四日市庁舎などで箏の演奏会を開催し、邦楽文化の発展に尽力している。</p> <p>こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別 文化新人賞 活動分野等 文学分野（俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>あかの よつば 赤野 四羽</p> <p>(本名：おおくま さだつぐ 大隈 貞嗣)</p> <p>(40 歳)</p>	<p>鈴鹿市</p>	<p>氏は、平成 23 年に俳句の創作を始め、平成 26 年に月刊俳句界「俳句の未来人」にその作品が掲載される。</p> <p>平成 27 年に句集を出版するとともに、平成 28 年には、現代俳句協会が主催する「現代俳句新人賞」また、俳誌「豈」が主催する「摂津幸彦賞」佳作をそれぞれ受賞している。</p> <p>さらに、誌上句会にて投稿俳句の選句、選評を担当するとともに、平成 27 年には俳句と音楽のコラボレーションコンサートをライブカフェで開催するなど、俳句文化の発展に寄与している。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別 文化新人賞 活動分野等 文学分野（俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>おかじま ちあき 岡島 千秋 (66 歳)</p>	<p>伊賀市</p>	<p>氏は、小学校の教員を退職後、研修指導員として俳句指導を始め、現在は「山繭俳句会」に入会し、創作活動を続けている。</p> <p>平成 23 年に「山繭新人賞」、平成 26 年には「芭蕉祭全国俳句大会（当日句）」特選、平成 27 年には「三重県民文化祭」文化部門実行委員会賞など、諸団体が主催する俳句大会において数多くの受賞歴を有する。</p> <p>また、氏の作品は全国有数の俳句の総合誌である「俳壇」や「俳句四季」にも掲載されるなど高い評価を得ている。</p> <p>さらに、伊賀市の「しぐれ忌俳句大会」の実行委員として活躍するとともに、地元小学校や高齢者対象のサロンにおいて俳句指導を行うなど、後進の育成と俳句文化の発展に貢献している。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別 文化新人賞 活動分野等 文学分野（詩・児童文学）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>くほ けいこ 久保 恵子 (62 歳)</p>	<p>伊勢市</p>	<p>氏は、小学校の教員を退職後、平成 23 年に「みみずくの会」、平成 24 年には「伊勢童話をつくる会“ほほえみ”」に入会して以来、本格的に文学活動を始め、平成 25 年に「四日市文芸賞・児童文学部門」優秀賞を受賞している。</p> <p>平成 26 年に第 1 詩集「めぐみちゃん」平成 28 年には第 2 詩集「わたしの心は風に舞う」を発表し、第 2 詩集は「全国学校図書館協議会」と「日本子どもの本研究会」の選定図書に選ばれている。</p> <p>また、病身でありながら、数年前より地元の小学校と介護老人保健施設で朗読ボランティアをしており、地域の文学の普及に貢献している。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別 文化新人賞 活動分野等 音楽分野（声楽）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>こばやし みさき 小林 美咲 (25 歳)</p>	<p>津市</p>	<p>氏は、高校入学の年から本格的に声楽をはじめ、平成 26 年に「愛知県立芸術大学定期演奏会」に選抜出演し、同年、「みえ音楽コンクール」声楽部門大学・大学院の部第 1 位となり三重県知事賞を受賞。 平成 28 年には「全日本学生音楽コンクール」声楽部門大学の部で名古屋大会第 1 位、全国大会第 2 位、平成 29 年には愛知県立芸術大学大学院を首席で修了し、優秀学生賞を受賞するなど、高く評価されている。 また、全国高等学校総合文化祭では実行委員として他県の学生に三重県の文化の魅力をアピールし、大学院在学中は、「第 3 回 JCA ユースクワイア」で実行委員となりテレビや様々なコンサートに出演するなど音楽を通じ地域の発展に寄与している。 氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別 文化新人賞 活動分野等 美術分野（陶芸）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>しらき ちか 白木 千華 (43 歳)</p>	<p>四日市市</p>	<p>氏は、大学卒業後、陶芸教室にて陶芸を始め、平成 23 年と平成 29 年の「四日市萬古陶磁器コンペ」で 2 度のグランプリを受賞したほか、平成 27 年には「マイヤー×信楽大賞」入選、平成 29 年には「国際陶磁器展美濃」入選等の受賞歴を有し、高く評価されている。</p> <p>また、ばんこの里会館において開催の小学生を対象とした夏休み子ども陶芸教室のサポート等、人材の育成にも尽力されている。</p> <p>作風は、魚や動物などが生き活きと表現されたカラフルでポップな作品で、作品の評価が非常に高い。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

第17回 三重県文化賞の概況

1 賞の趣旨

三重県の文化振興に貢献し、その活動及び功績が優れた個人・団体を表彰することにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標にもなるよう、顕彰制度として三重県文化賞を設ける。

2 募集期間

平成29年7月26日から9月25日まで

3 受賞候補者の状況

文化大賞	9名	
文化功労賞	10名	
文化奨励賞	15名	
文化新人賞	6名	総数 40名

4 受賞者の状況

(1) 分野別受賞者数

賞区分	分 野										計
	文学	美術	音楽	演劇・舞踊	写真	現代芸術	伝統芸能	生活文化	学術	その他	
文化大賞			1								1
文化功労賞	1		1				1				3
文化奨励賞	2	1	1		1						5
文化新人賞	3	1	1								5
計	6	2	4		1		1				14

(2) 地域別受賞者数

賞区分	地 域（各地域防災総合事務所・地域活性化局）										計
	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	南勢志摩	伊賀	紀北	紀南	県外	
文化大賞				1							1
文化功労賞				1		2					3
文化奨励賞	1	2		1		1					5
文化新人賞		1	1	1		1	1				5
計	1	3	1	4		4	1				14

三重県文化賞歴代受賞者（第1回～第17回）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第1回	平成13年度	北村 憲司（児童文学）	勝美 伊三次（日本舞踊） 保黒 時男（植物生態学調査）	あの津っ子の会（児童文学） 伊勢管弦楽団（交響楽） 伊藤 宏樹（吹奏楽） 落合 花子（詩歌） 川端 守（地域づくり活動）	新井 明子（演劇） 津手づくり絵本の会（児童文学） 坪井 智子（箏曲） 伴 剛一（作曲活動） 東川 和子（川柳） 平田 環（俳句）
第2回	平成14年度	（該当者なし）	亀山絵本と童話の会（児童文学） 坪島 土平（陶芸） 三重ヴォークスボーナ（合唱）	伊勢シンフォニックバンド（吹奏楽） 菅生 三千代（箏曲） 羽場 正一（演劇） 黛 元男（詩歌） 南川 憲生（彫刻）	池田 比早子（ひのきクラフト） 鎌田 美津子（写真） ゴルジ隊（演劇） 阪野 優（マンボ研究） 田中 豊（演劇） 中森 勉（写真） 平賀 節代（俳句） 森田 茂治（詩歌）
第3回	平成15年度	稲垣 克次（彫刻）	川北 佐平治（伝承芸能） 中村 武郎（ギター・マンドリン） 山口 勲（俳句）	金子 聡（環境科学研究） 北住 淳（ピアノ演奏） 近藤 英子（彫刻） 森 一蔵（萬古焼） 山内 玲子（箏曲）	石井 烈（俳句） 佐々木 經子（俳句） 東 勝美（児童文学） Building Bridges （文化資産等の保護） 津軽三味線兄弟ユニット KUNI-KEN（津軽三味線） 三浦 恭子（インド舞踊） 水野 昌光（地域の映画館を 活用した市街地活性化）
第4回	平成16年度	ヴォーカルアンサンブル 《EST》（合唱）	岡村 信也（吹奏楽） 土屋 喜八郎（能楽） 中林 長生（俳句）	笠井 幹夫（オペラ） 木岡 ふみ子（箏、三絃） 佐々木 宏子（ピアノ演奏） 清水 正明（郷土文学者・ 文学作品の発掘、紹介） 谷口 智行（俳句）	阪本 青悠（書） 高崎 一郎（詩） 中山 かほり（吹奏楽） 藤田 智子（箏、十七絃等） 松田 実穂（小説） 三重大学ダンス部（ダンスの創作）
第5回	平成17年度	野口 已織子（日本画）	関宿町並み保存会 （関宿の町並み保存） 田村 美保子（大正琴） 間瀬 昇（評論、小説）	田村 公男（洋画） 東海 かおり（箏、三絃） 福山 良子（俳句） 松嶋 節（小説） 山村 楽女（日本舞踊）	伊勢童話をつくる会“ほほえみ” （童話） 麻植 慶治（雅楽） 奥山 和子（俳句） 後藤 千佳子（筆名；伍東ちか） （現代詩） 津村 美香（フラワーデザイン） 人情集団An-Pon-Tan （バリアフリーミュージカル）
第6回	平成18年度	谷本 光生（伊賀焼）	岡森 章（伊賀焼） 森 浩一（能楽・狂言）	川島 雅樹 （声楽・オペラ・合唱） 水谷 幸勉（工芸美術） 宮村 典子（川柳） 村上 しいこ（童話） 三重オペラ協会（オペラ）	佐藤 千恵（俳句） みえ熊野学研究会 （地域資産研究）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第7回	平成19年度	宮田 正和 (俳句)	越知 愛幸子 (合唱) 中川 忠峰 (根付) 吉居 清雄 (堅塩作り)	中山 かほり (吹奏楽)・ 西田 誠 (俳句) 秦 昌弘 (郷土作家の研究) 服部 博之 (和太鼓) 馬場 浩子 (声楽)	アモーレかめやま (大正琴) 梅山 憲三 (現代詩) 垣内 美穂 (詩・児童文学) 桐生 智晃 (吹奏楽) 葛原 郁子 (短歌) 現代邦楽奏団グループ竹友 (邦楽) 比留間 雅弥真天 (邦楽)
第8回	平成20年度	小野 雅生 (洋画)	稲垣 無得 (書) 倉田 しげる (俳句)	伊藤 政美 (俳句) 岩崎 孝子 (洋画) 津田 親重 (日本画) 野村 幸廣 (ミュージカル) 山本 翠松 (伝統漆工芸)	秋野 信子 (詩・小説) 岡本 妙子 (詩) 劇団員弁川 (演劇) 福田 容子 (俳句)
第9回	平成21年度	園田 幸男 (吹奏楽)	赤井 重規 (能楽) 原 直矢 (彫刻) 鍋島 泰 (方言の研究)	橋本 輝久 (俳句) 三重県吹奏楽連盟 (吹奏楽) 田中 厚好 (彫刻) 青木 久佳 (短歌) 岸 武男 (演劇)	山口 道子 (版画) 前田 照子 (俳句) やまぎり 萌 (現代詩) 林 英一 (多文化共生の研究) 長岡 むつみ (リコーダー指導) 中川 左和子 (短歌)
第10回	平成22年度	長島 幹生 (写真)	相賀 泰 (神楽) 衣斐 弘行 (評論・小説の 執筆、郷土作家の顕彰) 川合 俊平 (合唱)	小河 柳女 (川柳) 津奈乃会 (邦楽) 矢田 新男 (写真) 矢吹 紫帆 (音楽による地域振興)	小早川 涼 (小説) 佐藤 ゆかり (女性史の研究) 多気町劇団白つばき (演劇) 橋倉 久美子 (川柳) 橋本 石火 (俳句) 堀内 晶 (地域の歴史・文化と 戦争体験の語り継ぎ) 村田 三郎 (地域文化の紹介と 観光ボランティアガイド) 村山 砂由美 (詩)
第11回	平成23年度	稲葉 祐三 (声楽・合唱・オペラ)	田嶋 禮子 (マリンバ) 玉置 千代 (児童文学) 野嶋 峰男 (木漆工芸)	伊藤 清和 (美術の振興) 神田 ひろみ (俳句・評論) 清崎 博 (安乗の人形芝居) 山崎 龍芳 (伊賀焼) 四日市ジュニア・アンサンブル (合奏等)	越知 ひとみ (音楽の普及) 小津 由実 (俳句) 斎宮アカデミー (歴史・文化) 清水 潮 (萬古焼) 中西 紀和 (陶芸)
第12回	平成24年度	橋本 三重子 (日本画、書道)	伊藤 政美 (俳句) 角谷 英明 (陶芸) 菅生 和光 (吹奏楽、指揮者)	桐生 智晃 (吹奏楽) 坂尾 富司 (写真) 中村 かおる (箏曲) 西田 真也 (陶芸) 三重県陶芸協会 (「焼きもの」の振興)	真山 隼人 (浪曲) 志摩市俳句協会 (俳句) 手塚 泰子 (俳句) 西村 健二 (郷土史研究) 堀川 孝子 (詩) 村松 とし子 (短歌)
第13回	平成25年度	三重フィルハーモニー 交響楽団 (交響楽)	羽場 正一 (演劇) 羽根 功二 (合唱) 森 悦彦 (作詞・作曲)	小川 匪石 (書) 紀の川良子と市民劇団 (演劇を通じた地域振興) 阪本 青悠 (書) 達知 和子 (短歌) 比留間 雅弥真天 (箏・三弦)	岩田 典子 (俳句) 服部 真紀子 (陶芸) 廣 めぐみ (声楽)

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第14回	平成26年度	加藤 子華（書）	谷本 景（伊賀焼） 森 正（陶芸） 脇谷 実千子（児童文学）	尾崎 亥之生（俳句） 武村 豊徳（陶芸） 伴野 節子（箏・三絃） 吉川 光和 （競技かるたの読み手） 吉崎 柳歩（川柳）	伊藤 圭佑（津軽三味線） つけ みさお（児童文学） 西田 昂平（声楽） 和太鼓 凜（和太鼓）
第15回	平成27年度	三代 清水 醉月（陶芸）	加藤 純一（詩吟） 福田 勝（能楽） 松山 好成（組紐）	印藤 幸恵（陶芸） 坂口 緑志（俳句） 田邊 三郎（写真） 中井 智弥（箏曲） 安田 隆亮（絵画）	牛場 寿子（写真） 大形 弥生（木工） 駒田 早代（津軽三味線） 野瀬 みつ子（写真） 平野 透（俳句）
第16回	平成28年度	錦 かよ子（作曲）	石井 いさお（俳句） 矢田 新男（写真）	梅山 憲三（現代詩） 岡本 千尋（俳句） 加藤 秀樹（陶芸） 憲旺会（尺八） 伴 剛一（作曲）	伊藤 潤一（書） 前田 祐英（木工） 森川 真理子（バステル画） 森下 充子（俳句） 横田 千明（彫刻）
第17回	平成29年度	合唱団「うたおに」（合唱）	井上 博暁（俳句） 菊川 淑子（能） 桐生 智晃（吹奏楽）	牛場 和美（写真） 紺谷 猛（小説） 近藤 たみ（陶人形） 藤原 伸久（小説） 森 玲子（箏曲）	赤野 四羽（俳句） 岡島 千秋（俳句） 久保 恵子（詩・児童文学） 小林 美咲（声楽） 白木 千華（陶芸）